

不登校対策支援プラン

更新日 4 月 1 日

プランの策定にあたって

県内において不登校児童生徒数は増加傾向にある中、不登校対策では、対象や課題性に基づいた取組が求められています。全ての児童生徒を対象とした取組や不登校の予兆が見られる児童生徒への支援、欠席が継続している児童生徒への支援を組織的かつ計画的に行うことが必要です。

本校では、実態を把握し、以下の目標や取組を設定し、教職員が一丸となり対策を進めることで、誰一人取り残すことのない、持続可能な不登校対策や支援を行います。

不登校対策の目標

- 1 欠席した生徒に十分気を配り、長期欠席とならないようにする。
- 2 関係機関や保護者と十分に連携し、登校できる割合を増やす。
- 3 生徒の実態に合わせて積極的に登校刺激を与え、前進していくことを目標に関わる。

不登校対策における重層的支援構造

(参考：生徒指導提要R4.12)

困難課題対応
不登校児童生徒対象

- ・不登校児童生徒へのカンパリングや別室登校
- ・保護者や関係機関と連携した支援
(拡大ケース会議の実施)

早期発見対応
予兆のある生徒対象

- ・休み始めの段階でのアセスメント
(校内ケース会議)
- ・組織的対応、保護者と連携した支援

未然防止教育
全ての児童生徒対象
不登校対策を意識する

- ・児童生徒がSOSを出す力を獲得
- ・教職員が児童生徒の変化に気づきSOSを受けとめる力の向上

発達支持
全ての児童生徒対象
不登校を意識しない

- ・安全・安心な居場所となるための「魅力ある学校づくり」と「分かりやすい授業」の工夫
- ・教育相談体制の充実

不登校対策チーム構成

管理職、該当担任、学年代表、生徒指導担当、不登校担当、養護教諭、スクールカウンセラー（SC）等

不登校児童生徒支援関係機関等

教育支援センター
学校サポートチーム
保健福祉課 家庭児童相談所
学校評議員会
こども家庭センター

4つの層での取組 等

発達支持

- ・授業の中で、安心して学習ができる集団づくりをする。
- ・思いを受け止め共有できる集団づくりをする。

未然防止教育

- ・自分の思いを言葉にする力（対話する力）の育成を進める授業を実施する。
- ・自分も相手も大切にすることを育成する取組を実施する。

早期発見対応

- ・健康観察、個別面談、アンケートの活用等により、小さな変化に気づく。
- ・欠席したときに保護者と密に連絡を取り、兆候をいち早く察知する。

困難課題対応

- ・教育支援センターと連携し、生徒・保護者両方への支援体制を整える。
- ・別室を設置する等、登校しやすい環境をつくり、生徒に合わせた目標設定をする。